

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
現代の国語	2	1年・1類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	現代の国語（東京書籍）		漢字問題集等

科目の到達目標 言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について a（知識・技能） 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 b（思考・判断・表現） 各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c(主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 以上の観点について、定期テスト・レポート・小テストなどを通して確認する。
--

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	評論 「技術が道徳を代行するとき」 池内了	・ 評論を読み、本文の内容を的確に理解する。	・ 具体例と筆者の主張との関係を読み取り、全体の構成を理解する。 ・ 譲歩構文・接続詞に注目して本文の展開を理解する。
	5	「水の東西」 山崎正和	・ 技術と人間の関係、日本と西洋の文化の違いを2項対立で理解する。	・ 「鹿おどし」と「噴水」の違いを整理し、筆者の考える日本人の感性について考察する。
	6	『身銭』を切るコミュニケーション 内田樹	・ 言葉本来の目的であるコミュニケーションの成立には、「文脈」の理解が必要であることを理解する。	・ 身近な例から言葉を正しく伝えるには何が必要かを考える。
	7	「解釈」 外山滋比古	・ 読者論、テキスト論の立場から、作品の理解は作者と読者の協同によって成立することを理解する。	・ 解釈することが創造であるという視点から、「読む」ことの意味を再考する。
		小論文講座 1学期末考査		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	評論 「広告の形而上学」 岩井克人	・評論に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。	・キーセンテンスに注目し、本文を読み取る。 ・「現実の動物たち」と『動物』なるものについて、対比させて読み取る。
	10	「時間と自由の関係について」 内山 節 「真の自立とは」鷲田清一	・時間と自由の関係についての筆者の主張を的確に読み取る。 ・自己と他者の関係のあり方について関心を持ち、考える態度を養う。 ・「自立」という言葉を一般的な意味とは違った視点で捉え直し、筆者のいう「生きる意味」について理解する。	・筆者の理想について確認する。 ・評論読解力を培う。 ・現代社会のさまざまな局面における「生きづらさ」の問題を解決する道を、自ら考える力を養う。
	11			
	12	「生物の多様性とは何か」 福岡伸一 マッピングによる学習 2学期末考查	・生物多様性について論じた評論を読み、それぞれの問題について、自身の考えを深める。	・キーワード・キーセンテンスに注意しながら読み取る。 ・「生物多様性」についての筆者の考えをまとめる。
三 学 期	1	評論 「学ぶことと人間の知恵」	・人間の脳の特徴から「知恵」というものを正しく理解し、論理的文章の在り方を深く学ぶ。	・「知恵を身につけるために学ぶ」という結論ありきで展開する文章を、具体例を通じて正確に読み進める。
	2	「暇と退屈の倫理学」 國分功一郎 グラフや写真の読み取り方 学年末考查	・暇を得た社会の中で、個人はどう生きればよいかを考える。	・引用と筆者の主張の関係に注意して、内容を的確に読みとる。
	3			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・感覚的に読解するのではなく、文や文章の構成を的確に把握することで、論理的な読解ができるように意識して取り組む。
- ・各学習課題に沿って進んで学習活動に取り組もうとする姿勢をレポートなどで確認し、主体的に学びに取り組む態度として評価する。
- ・小テストを実施し、評価に組み込む。
- ・小論文入試・論述問題を視野に入れながら、計画的に文章表現の練習を行い、添削講座にも参加する。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
現代の国語	2	1年・2類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	現代の国語（東京書籍）		『解法のテクニック』 漢字問題集等

科目の到達目標
言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について	a（知識・技能） 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。
b（思考・判断・表現） 各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	
c(主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
以上の観点について、定期テスト・レポート・小テストなどを通して確認する。	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	読解編 「技術が道徳を代行するとき」 池内了	・表現や構成に注意して評論を読み、本文の内容を的確に理解する。	・論の展開に注意して評論を読み、技術の発達と道徳的な判断力の関係について理解する。
	5	「水の東西」 山崎正和 評論の型 1学期中間考査	・技術と人間の関係、日本と西洋の文化の違いを二項対立で理解する。 ・評論の型を理解し、評論の読み方を知る。	・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。
	6	『身銭』を切るコミュニケーション 内田樹 「解釈」 外山滋比古	・言葉を巡る事柄について書かれた評論を読み、言語生活を豊かにする。 ・自分の考えを文章にし、伝えると共に、人の意見を聞く態度を養う。	・筆者独自の表現や具体例の働きに注意して読み、コミュニケーションの在り方について考える。 ・他言語と比較することで言葉の意味の在り方を理解し、言葉に関心を持って言語生活を豊かにする。
	7	探求編 話す・聞く・書く 本を紹介する 問題演習① 小論文指導 1学期末考査	・小論文の基本的な書き方について学び、自分の意見をまとめる力をつける。	・紹介する本を選び、紹介文を書く。各班で紹介し合う。 ・小論文のテキストを用いて、自分の考えをまとめ、文章にする。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	評論 「広告の形而上学」 岩井克人	・文章の構成や展開に注意して評論を読み、自ら考える態度を養う。	・比喩に注意して、広告の奇妙さについて書かれた評論を読み、現代社会の特質について考える。
	10	「時間と自由の関係について」 内山 節	・評論に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。	・時間と自由の関係についての筆者の主張を的確に読み取り、必要に応じてその内容を要約する。
		小論文指導 問題演習② 2学期中間考査	・具体的な事例に注意して評論を読み、「自立」の在り方について考えを深める。	・「自立」の在り方について考察する評論を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。
	11	「真の自立とは」 鷲田清一 「自立と市場」 松井彰彦 「生物の多様性とは何か」 福岡伸一	・文章を読み比べてその相違点について考える。 ・構成や展開に注意して内容を読み取り、人間の特質を考える。	・二つの文章を読み合わせて、その相違点からそれぞれの意見について考える。 ・紹介されている体験談を踏まえて、「能力」に関する筆者の考えを読み取る。
	12	探求編 書く 発想を広げて課題を見つける 問題演習③ 2学期末考査	・発想を広げてアイデアを整理し、的確に伝える。	・生物多様性について論じた評論を読み、それぞれの問題について、自身の考えを深める。 ・自分の興味・関心をきっかけに思考や発想を広げ、深める方法を身につける。
三 学 期	1	評論 「学ぶことと人間の知恵」 広中平祐	・構成や展開に注意して内容を読み取り、人間の特質を考える。	・文のつながりに着目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。
	2	「暇と退屈の倫理学」 松浦寿輝 探求編 グラフや写真の読み取り方	・引用や主張に注意して内容を読み取り、近代から現代への変化と、そこで生きる人の姿を見つめる。 ・図表や画像などを的確に読み取る力を養う。	・暇を得た社会の中で、個人はどうかについて、引用と主張の関係に注意して読み取る。
	3	問題演習④ 学年末考査		

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・感覚的に読解するのではなく、文や文章の構成を的確に把握することで、論理的な読解ができるように意識して取り組む。
- ・教科書の読解だけでなく新聞や参考書等も読み、授業で培った読解法を実践していくことで確かな学力を自主的に育んでいく。
- ・単元テストや小テストを実施し、評価に組み込む。
- ・小論文入試・論述問題を視野に入れながら、計画的に文章表現の練習を行い、添削講座にも参加する。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
現代の国語	2	1年・3類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	新編現代の国語（東京書籍）		漢字問題集

科目の到達目標 言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について a (知識・技能) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 b (思考・判断・表現) 各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c(主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 以上の観点について、定期テスト・レポート・小テストなどを通して確認する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	随想 「こそめスープ」 村田沙耶香	・筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。	・筆者の考える「自分の作りあげた異世界」について理解する。
	5	「ルリボシカミキリの青」 福岡伸一	・筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。	・筆者の熱中したことを表現に即して捉え、理解する。
		評論 「未来をつくる想像力」 石田英敬	・情報と想像力の関係を論じた文章を読み、意見の根拠を的確に理解して筆者の主張をつかむ。	・「イメージの貧困」がなぜ起きるのかや、「イメージの共有」がなぜ個人の単独性を失わせるのかといったことについて理解する。
	6	「水の東西」 山崎正和	・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。	・水に対する日本人の感性を筆者の考え方に沿って捉え、日本人の感性の特質と「鹿おどし」の関係を理解する。
	7	小論文講座		
		1 学期末考查		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」 塚谷裕一	・身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい視点について理解する。	・「都市部のスキマ」と「都市部の公園」の違いを、生態系に果たす役割という観点を押さえながら読み取り、整理する。
	10	「無彩の色」 港千尋	・色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむ。	・筆者の主張する灰色についての日本文化の特色を、伝統色を確認しながら理解する。
		「鍋洗いの日々」 村上信夫	・自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。	・働く人の思いに触れ、社会に生きる自分の将来について考える。
	11	「美しさの発見」 高階秀爾	・「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、その展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。	・評論の内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を読み取る。
	12	マッピング・ブレイクストーミングによる学習 2学期末考査		
三 学 期	1	「りんごのほっぺ」 渡辺美佐子	・出来事の順序に着目しながら、戦時下の人々の状況と、作者の思いを読み取る。	・「T君」と「私」との関わりや、「私」の「T君」の思いを整理する。 ・「T君」の両親に対面したときや朗読劇に参加したときの「私」の心情を表現に即して捉える。
	2	「真の自立とは」 鷲田清一 グラフや写真の読み取り	・「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。	・筆者の主張する「自立」について、現代社会で混同して使われている「独立」という言葉との違いも踏まえて読み取る。
	3	学年末考査		

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・感覚的に読解するのではなく、文や文章の構成を的確に把握することで、論理的な読解ができるように意識して取り組む。
- ・各学習課題に沿って進んで学習活動に取り組もうとする姿勢をレポートなどで確認し、主体的に学びに取り組む態度として評価する。
- ・小テストを実施し、評価に組み込む。
- ・小論文入試・論述問題を視野に入れながら、計画的に文章表現の練習を行い、添削講座にも参加する。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
言語文化	2	1年1類	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	言語文化 (東京書籍)	古文単語テキスト等	

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度)言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
	4	古文の学習 説話 「児のそら寝」	- 我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 - 古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 - 古典の文章に慣れるとともに、古文における人物造形のおもしろさを読み取る。 『枕草子』とは異なる思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。	- 説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 - 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を理解する。 - 主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。 - 主として用言の活用について、文語のきまりを理解する。
	5	「絵仏師良秀」 『宇治拾遺物語』 古文学習のしるべ①② 1学期中間考査 「大江山の歌」 『十訓抄』		
	6	随筆 「ある人、弓射ることを習ふに」 『徒然草』 古文学習のしるべ③		
	7			
		1学期末考査		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	随筆 「ありがたきもの」 『枕草子』	・自由に記述された随筆を読んで、 当時の人々の生活感覚や興味の 対象を知り、ものの見方・考え 方を理解する。	・随筆のさまざまな文体や取り上げられ た対象に触れ、解釈を深める。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。
	10	歌物語 「芥川」 「筒井筒」 『伊勢物語』 古文学習のしるべ④ 助動詞①	・話の中で和歌が果たしている役 割を押さえ、歌物語の特徴と読 み解き方を理解する。	・主として敬語について文語のきまりを 理解する。 ・歌物語では感動の中心が歌にあること を理解し、内容や展開を的確に捉える。 ・歌物語という文章の種類を踏まえて、 内容や展開を的確に捉え、作品に表れ ているものの見方や考え方を捉え、内 容を理解する。
	11	2学期中間考査 漢文の学習 訓読の基本 日記 「馬のはなむけ」 『土佐日記』 助動詞②	・我が国の言語文化についての理 解を深めるために、古典として の漢文を読むことの意義を知 る。 ・我が国最初の日記文学を読んで、 記録としての日記とは異なる表 現方法と随筆意図を読み解く。	・漢文を訓読するための基礎知識として、 返り点の種類と使い方、助字のはたら きと意味を習得する。 ・女性に仮託して書かれた日記という文 章の種類を踏まえて、内容や展開を的 確に捉える。
	12	2学期末考査		
三 学 期	1	作り物語 「天の羽衣」『竹取物語』 和歌 『万葉集』、『古今和歌 集』、『新古今和歌集』 3学期末考査	・最古の作り物語を通じて、虚 構の物語に込められた思い を汲み取る。 ・我が国の伝統文化の一つである 和歌の鑑賞のしかたを理解し、 黎明期、発展期、成熟期の和歌 の特色を捉える。	・敬語の学習を通じて、登場人物の把握 や立場の理解をし、本文の理解に役立 てる。 ・枕詞や序詞などの和歌の修辞について、 文語のきまりを理解する。 ・掛詞・縁語・見立てなどの和歌の修辞 について、文語のきまりを理解する。 ・本歌取り・本説取り・体言止めなどの 和歌の修辞について、文語のきまりを 理解する。
	その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） ・正確な読解に向けて古文の文法や古語、漢文訓読の学習を心がけること。また知識・技能を身につけるとともに我が国の言語文化に対する理解を深めるよう心がけること。 ・伝え合う活動などを通して、内容理解を深め、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり、深めたりすること。 ・小テストを実施し、評価に組み込む。 ・ノートや課題の提出状況・内容も評価に組み込む。			

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
言語文化	3	1年2類	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	言語文化（東京書籍）	核心古文単語 351（尚文出版） 高校生の古典文法・演習編（啓隆社）	

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度)言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。以上の観点について、定期テスト・レポート・小テストなどを通して確認する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
	4	「兄のそら寝」 「絵仏師良秀」 『宇治拾遺物語』	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。	・歴史的仮名遣いや古今異義語・品詞の種類について理解する。
	5	「大江山の歌」 『十訓抄』 1学期中間考査 「ある人、弓射ることを習ふに」	・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや、古文における人物造形のおもしろさを読み取る。	・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。
	6	「九月二十日のころ」 『徒然草』 古典文法（用言） 漢文 訓読の基本 矛盾・推敲	・随筆に現れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を理解する。
	7	『羅生門』芥川龍之介 1学期末考査 夏期講習（助動詞）	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。	・作品に表れた作者の批評・教訓・感動などを積極的に読み取る。
			・小説に親しみ、話の展開や主題を読みとる。	・動詞・形容詞・形容動詞の活用について学ぶ。
				・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方、助字のはたらきと意味を習得する。
				・故事成語を読んで、漢文の世界に親しむ。
				・小説に描かれた登場人物・情景・心情などを、表現に即して読み取る。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	「ありがたきもの」 『枕草子』 古典文法（助動詞復習） 「芥川」 「筒井筒」 『伊勢物語』	- 随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 - 話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 - 話の構成や展開を確かめ、寓話の内容や表現の仕方について理解する。	- 作者の考えを踏まえて、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 - 歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。
	10	借虎威 塞翁馬 2学期中間考査	我が国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。	登場人物の言動から、寓話に込められた意図について考える。
	11	「馬のはなむけ」 「帰京」 『土佐日記』 古典文法（敬語）	我が国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。	- 女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 - 主として敬語について文語のきまりを理解する。
	12	臥薪嘗胆 問題演習 2学期末考査	史話に描かれた情景や人物の心情などを、表現に即して読み味わう。	登場人物の言動を読み取り、そこに表れたものの見方、感じ方、考え方を捉える。
		冬期講習（助詞）		
三 学 期	1	「平泉」 『奥の細道』 『万葉集』、『古今和歌集』、『新古今和歌集』	- 俳諧紀行文における散文と句の関係を理解し、作品に表れた作者の思想や心情を捉える。 - 我が国の伝統文化の一つである和歌の鑑賞のしかたを理解し、黎明期、発展期、成熟期の和歌の特色を捉える。 - 漢詩のきまりと表現の特色について学び、唐詩の世界に親しむ。 - 小説に描かれた登場人物の感じ方や生き方などを、話の展開に注意して読み取る。	句に感動の中心がある俳諧紀行文という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。
	2	漢詩 絶句と律詩 雑説		枕詞や序詞などの和歌の修辞について、文語のきまりを理解する。
	3	『富嶽百景』 太宰治 問題演習 学年末考査		- 描かれた状況や心情を考えながら、それぞれの詩や文を読み味わう。 - 場面ごとの情景や登場人物の心情の変化に留意して、小説を読み味わう。
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） - 正確な読解に向けて古文の文法や古語、漢文訓読の学習を心がけること。また知識・技能を身につけるとともに我が国の言語文化に対する理解を深めるよう心がけること。 - 予習として、古文は音読・口語訳等を、漢文は音読・書き下し文等をしておくこと。 - 大学入試に向けての基礎学力養成のため単語・古典文法の小テストを実施し、評価の一部とする。				

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
言語文化	2	1年3類	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	言語文化 (東京書籍)		

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度)言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
	4	古文の学習 説話 「児のそら寝」	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。	・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。
	5	古文学習のしるべ①② 小説 「羅生門」 芥川龍之介 翻案作品を原作と読み比べる	・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を理解する。
	6	随筆 「ある人、弓射ることを習ふに」	・小説に描かれた登場人物・情景・心情などを読み取る。	・主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。
	7	『徒然草』 古文学習のしるべ③	・異なる時代に成立した作品を、共通点と相違点に注意しながら読み比べる。	・小説の基本設定を捉える。
		1学期末考查	・『枕草子』とは異なる思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。	・ストーリーや、登場人物の内面の変化を読み取る。
				・主題を考える。
				・本文中に表れた作者の批評・教訓・感動などを積極的に読み取る。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	随筆 「ありがたきもの」 『枕草子』	・自由に記述された随筆を読んで、 当時の人々の生活感覚や興味の 対象を知り、ものの見方・考え 方を理解する。	・随筆のさまざまな文体や取り上げられ た対象に触れ、解釈を深める。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。
	10	歌物語 「芥川」『伊勢物語』	・話の中で和歌が果たしている役 割を押さえ、歌物語の特徴と読 み解き方を理解する。	・主として敬語について文語のきまりを 理解する。 ・歌物語では感動の中心が歌にあること を理解し、内容や展開を的確に捉える。
		小説 『鏡』村上春樹	・それぞれの場面の情景や登場 人物の心情の変化に留意し て小説を読み味わう。	・小説に描かれた登場人物の感じ方や 生き方などを、話の展開に注意して 読み取る。
	11	日記 「馬のはなむけ」 『土佐日記』	・我が国最初の日記文学を読んで、 記録としての日記とは異なる表 現方法と随筆意図を読み解く。	・女性に仮託して書かれた日記という文 章の種類を踏まえて、内容や展開を的 確に捉える。
	12	2学期末考査		
三 学 期	1	作り物語 「天の羽衣」『竹取物語』 敬語表現	・最古の作り物語を通じて、虚 構の物語に込められた思い を汲み取る。	・敬語の学習を通じて、登場人物の把握 や立場の理解をし、本文の理解に役立 てる。
		漢文入門 「矛盾」 3学期末考査	・訓読のきまりを理解し、文章の 内容を的確に読み取る。 ・故事成語を読んで、漢文の世界 に親しむ。	・音読を繰り返し、正しく書き下し文を 書く。 ・語句・句法の意味、用法に注意し本文 の内容を理解する。 ・「矛盾」の内容から、本教材に込められ た意図を理解する。
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） ・正確な読解に向けて古文の文法や古語、漢文訓読の学習を心がけること。また知識・技能を身につけるとともに我が国の言語文化に対する理解を深めるよう心がけること。 ・伝え合う活動などを通して、内容理解を深め、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり、深めたりすること。 ・ノートや課題の提出状況・内容も評価に組み込む。				

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
論理国語	3	2年 1類 (A・C型)	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		精選論理国語 (東京書籍)	常用漢字ダブルクリア (尚文出版) 他

科目の到達目標 言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について a (知識・技能) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 b (思考・判断・表現) 各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c (主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 以上の観点について、定期テスト・レポート・小テストなどを通して確認する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	評論 「ミロのヴィーナス」 清岡卓行	・想像力による可能性の多様さや芸術の見方について考えを持つ。	・逆説的、比喩的表現に注意し、筆者の意見を理解する。
	5	「相手依存の自己規定」 鈴木孝夫 1 学期中間考査	・言語と自我の構造の関係について考えを深める。	・筆者の視点や観点を理解し、本文の表現に注意して筆者の意図を的確にとらえる。
	6	評論 「科学的『発見』とは」 小川眞里子 「消費されるスポーツ」 多木浩二	・現代の人間関係の在り方を論じた評論を読み、自分の考えを深める。 ・現代社会における、スポーツの発展とメディアの関係性を考察する。	・事例と筆者の分析の関係性に注意して読み、人間関係の在り方を考察する。 ・筆者の意見を的確に捉え、メディアが果たす社会の形成を考察する。
	7	小論文指導 1 学期期末考査	・言葉で表現することへの意欲を持ち、効果的な表現を考えて書く力を養う。	・論理の構成や展開を意識し、小論文を書く力を養う。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	評論 「日本人の美意識」 高階秀爾	・抽象的な表現を、様々な具体例を通じて理解し、自身が抽象的な物事を言語化する力を養う。 ・抽象的な言語論に慣れ、高度な読解力を身につける。	・抽象論を論旨に沿って理解し、日本人の性格について考える。 ・普遍的な事象を特定の角度からとらえた評論を読み、言葉や人間についての認識を深める。
	10	「言語と記号」 丸山圭三郎		
		2学期中間考査		
	11	評論 「環境問題と孤立した個人」 河野哲也	・論理的な文章を的確に読み取った上で、近代の自然観が環境や人間に及ぼす影響について深く理解する。	・論理を的確にたどり、深い思索が分野の異なる幅広い知識に支えられていることを理解する。
		評論 「鏡の中の現代社会」 見田宗介 小論文指導	・近代を論じた評論を読み、現代社会における生き方を見直す。	・近代的価値観の特徴を理解し、私たちの生きる現代社会を見直すことで、新しい社会の在り方を模索する。
	12	2学期期末考査	・言葉で表現することへの意欲を持ち、効果的な表現を考えて書く力を養う。	・論理の構成や展開を意識し、小論文を書く力を養う。
三 学 期	1	評論 「おじいさんのランプ」 宇野常寛	・具体例をもとに、筆者の主張を正しく捉え、情報がいかにして伝達されるのかを深く理解する。	・論証したり、学術的な学習の基礎を学ぶための知識を身につけ、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解する。
	2	評論 「社会が壊れるとき」 鷲田清一 小論文指導	・論理の構成を把握し、説得力のある展開の方法を身につける。	・引用と筆者の意見を整理し、論旨を把握する。 ・抽象的な表現を具体的に理解し、筆者が述べる問題点を理解する。
	3	学年末考査	・言葉で表現することへの意欲を持ち、効果的な表現を考えて書く力を養う。	・論理の構成や展開を意識し、小論文を書く力を養う。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・大学入試に対応するための読解力を目指し、論理的思考を養う。
- ・文章表現の練習を計画的に行い、小論文の力を養成する。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
論理国語	2	2年 1類 (B型)	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		精選論理国語 (東京書籍)	常用漢字ダブルクリア (尚文出版) 他

科目の到達目標 言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について a (知識・技能) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 b (思考・判断・表現) 各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c (主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 以上の観点について、定期テスト・レポート・小テストなどを通して確認する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	評論 「ミロのヴィーナス」 清岡卓行	・想像力による可能性の多様さや芸術の見方について考えを持つ。	・逆説的、比喩的表現に注意し、筆者の意見を理解する。
	5	「相手依存の自己規定」 鈴木孝夫 1 学期中間考査	・言語と自我の構造の関係について考えを深める。	・筆者の視点や観点を理解し、本文の表現に注意して筆者の意図を的確にとらえる。
	6	評論 「科学的『発見』とは」 小川眞里子 「消費されるスポーツ」 多木浩二	・現代の人間関係の在り方を論じた評論を読み、自分の考えを深める。 ・現代社会における、スポーツの発展とメディアの関係性を考察する。	・事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方を考察する。 ・筆者の意見を的確に捉え、メディアが果たす社会の形成を考察する。
	7	小論文指導 1 学期期末考査	・言葉で表現することへの意欲を持ち、効果的な表現を考えて書く力を養う。	・論理の構成や展開を意識し、小論文を書く力を養う。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	評論 「日本人の美意識」 高階秀爾	・抽象的な表現を、様々な具体例を通じて理解し、自身が抽象的な物事を言語化する力を養う。 ・抽象的な言語論に慣れ、高度な読解力を身につける。	・抽象論を論旨に沿って理解し、日本人の性格について考える。 ・普遍的な事象を特定の角度からとらえた評論を読み、言葉や人間についての認識を深める。
	10	「言語と記号」 丸山圭三郎		
		2学期中間考査		
	11	評論 「環境問題と孤立した個人」 河野哲也	・論理的な文章を的確に読み取った上で、近代の自然観が環境や人間に及ぼす影響について深く理解する。	・論理を的確にたどり、深い思索が分野の異なる幅広い知識に支えられていることを理解する。
		評論 「鏡の中の現代社会」 見田宗介	・近代を論じた評論を読み、現代社会における生き方を見直す。 ・言葉で表現することへの意欲を持ち、効果的な表現を考えて書く力を養う。	・近代的価値観の特徴を理解し、私たちの生きる現代社会を見直すことで、新しい社会の在り方を模索する。 ・論理の構成や展開を意識し、小論文を書く力を養う。
	12	小論文指導 2学期期末考査		
三 学 期	1	評論 「おじいさんのランプ」 宇野常寛	・具体例をもとに、筆者の主張を正しく捉え、情報がいかにして伝達されるのかを深く理解する。 ・論理の構成を把握し、説得力のある展開の方法を身につける。	・論証したり、学術的な学習の基礎を学ぶための知識を身につけ、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解する。 ・引用と筆者の意見を整理し、論旨を把握する。
	2	評論 「社会が壊れるとき」 鷲田清一		
	3	小論文指導 学年末考査	・言葉で表現することへの意欲を持ち、効果的な表現を考えて書く力を養う。	・抽象的な表現を具体的に理解し、筆者が述べる問題点を理解する。 ・論理の構成や展開を意識し、小論文を書く力を養う。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・大学入試に対応するための読解力を目指し、論理的思考を養う。
- ・文章表現の練習を計画的に行い、小論文の力を養成する。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
論理国語	3	2年・2類・文型	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	精選論理国語（東京書籍）	現代文単語・演習用問題集 等	

科目の到達目標
言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a（知識・技能）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。b（思考・判断・表現）各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c（主体的に学習に取り組む態度）言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。以上の観点について、定期テスト・レポート・小テストなどを通して確認する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	「いつもそばには本があった」 小林康夫 「論理とは何か」 「論証する力」「要約する力」 「ミロのヴィーナス」清岡卓行 「相手依存の自己規定」 鈴木孝夫	・読書の意義について筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。 ・書かれている内容を理解し、「論理的」とはどういうことを学ぶ。 ・具体例に注目して筆者の主張を理解し、芸術の見方について考える。 ・具体的な事例と筆者の意見の関係に注意して読み、言語と自我の構造について考える。	・「ペニアーの状態」から「欲望のプロセス」に至る方法を読み取り、筆者の主張を理解する。 ・論証の適切さを判断する方法を学び、説得力のある論証や反論を行うための演習を行う。 ・「幹」「枝葉」「根」という文章の構造を理解し、適切に要約するための演習を行う。 ・両腕のないヴィーナス像の持つ普遍的価値について、具体と抽象の関係性を捉えて筆者の主張を理解する。
	5	問題演習 1 学期中間考査 小論文指導 「科学的『発見』とは」 小川真理子	・本文中の二つの課題を体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。	・「科学的『発見』とは」どのようなものを、事例との関係性から読み取る。
	6	「分人とは何か」平野啓一郎 「資料を整理し、テーマを吟味する」 「メディアの変容」土井隆義	・提示された問いに注意して筆者の主張を理解し、自分に引き寄せて考える。 ・資料を集めてさまざまな観点から整理し、テーマを吟味する。	・「個人」という概念と、「本当の自分」との関係性を読み取る。 ・収集した資料の整理を通して、立場の違いによる主張や論拠の違い、問題意識の違いなどを検討し、理解している。
	7	問題演習 1 学期末考査・夏期講習	・挙げられている事例と筆者の分析の関係に注意して読み、人間関係の在り方について考えを深める。	・近年のネット環境と人間関係への依存度の関連性を、「制度的な枠組み」が強かった時代と比較して読み取る。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	「リスク」と「リスク社会」 神里達博	・対比に注意して論の展開をつかみ、「リスク」という概念について理解を深める。	・近代化の進展に伴う二つの変化と、それによる二つの「リスク」の増大の関連を読み取る。
		『環境』とは何か 上垣崇英	・「環世界」などの概念に注意しながら筆者の主張を理解し、環境について理解を深める。	・筆者が「環境」を考えるうえで重要とすることについて読み取る。
	10	「仮説を立てて検証する」	・仮説を立てて検証し、検証過程を文章にまとめる。	・仮説の検証過程を的確に報告文にまとめるための文章構成や展開を理解する。
		『である』ことと『する』こと 丸山真男	・例示と意見の関係を整理して主張を捉え、変化する社会における人間の在り方について考える。	・「である」価値と「する」価値の倒錯の内容を読み取る。
		問題演習 2学期中間考査 小論文指導		
	11	「消費されるスポーツ」 多木浩二	・筆者の提示する問題を読み取って整理し、メディアとスポーツの関係について理解を深める。	・スポーツと「社会」の関連性について、「活動の総体」としての「社会」と、アブリアリに存在する「社会」という捉え方の違いを踏まえて理解する。
三 学 期	12	「日本人の美意識」高階秀爾	・図を適切に参照して本文中の対比を捉え、日本と西欧の美意識の違いを理解する。	・日本人の美意識が倫理観と結びつき、生活行動全般にまで及んでいるという筆者の考えを読み取る。
		「地図の想像力」若林幹夫	・提示されている地図に注目して論の展開を押さえ、地図に対する筆者の考えを読み取る。	・「言語」と「地図」の共通性を捉え、「描き手」と「読み手」により「地図」が生みだすものについての筆者の考えを読み取る。
		問題演習 2学期末考査・冬期講習		
	1	小論文指導 「言語と記号」丸山圭三郎	・論の展開を意識して主張を理解し、言語に対する筆者の考え方と自己の考え方を比較する。	・従来の記号学における記号観と、その範疇を超える言語記号の特殊性を、各具体例に即して理解する。
	2	「環境問題と孤立した個人」 河野哲也	・取り上げられる話題をたどりながら近代の自然観を捉え、環境問題についての考えを深める。	・「近代科学の自然観」における「二元論的な認識論」を捉え、「環境問題」との関連性を理解して主要な論点を読み取る。
	3	「鏡の中の現代社会」見田宗介 問題演習 学年末考査	・さまざまな異世界との比較を通して、自己の生きる世界を相対的に認識することの意義を理解する。	・異国のの人々と、「近代」の精神との時間に対する感覚の違いを理解する。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・漢字の小テストを活用して漢字・熟語の知識の定着を図ること。
- ・実戦力を養うために、問題演習や出された課題にしっかりと取り組むこと。
- ・志望理由書・入試小論文対策として、志望大学・学部とその専門について探究すること。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
論理国語	2	2年・2類・理型	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	精選論理国語（東京書籍）	現代文単語・演習用問題集 等	

科目の到達目標
言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a（知識・技能）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。b（思考・判断・表現）各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c（主体的に学習に取り組む態度）言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。以上の観点について、定期テスト・レポート・小テストなどを通して確認する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	「いつもそばには本があった」 小林康夫	・読書の意義について筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	・「ペニアーの状態」から「欲望のプロセス」に至る方法を読み取り、筆者の主張を理解する。
		「論理とは何か」 「論証する力」 「要約する力」	・書かれている内容を理解し、「論理的」とはどういうことを学ぶ。	・論証の適切さを判断する方法を学び、説得力のある論証や反論を行うための演習を行う。
	5	「ミロのヴィーナス」 清岡卓行	・具体例に注目して筆者の主張を理解し、芸術の見方について考える。	・「幹」「枝葉」「根」という文章の構造を理解し、適切に要約するための演習を行う。
		問題演習 1 学期中間考査		・両腕のないヴィーナス像の持つ普遍的価値について、具体と抽象の関係性を捉えて筆者の主張を理解する。
		小論文指導 「科学的『発見』とは」 小川眞理子	・本文中の二つの課題を迫体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。	・「科学的『発見』とは」どのようなものを、事例との関係性から読み取る。
	6	「分人とは何か」 平野啓一郎 「資料を整理し、テーマを吟味する」 問題演習	・提示された問いに注意して筆者の主張を理解し、自分に引き寄せて考える。 ・資料を集めてさまざまな観点から整理し、テーマを吟味する。	・「個人」という概念と、「本当の自分」との関係性を読み取る。 ・収集した資料の整理を通して、立場の違いによる主張や論拠の違い、問題意識の違いなどを検討し、理解している。
	7	1 学期末考査・夏期講習		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	「リスク」と「リスク社会」 神里達博	・対比に注意して論の展開をつかみ、「リスク」という概念について理解を深める。	・近代化の進展に伴う二つの変化と、それによる二つの「リスク」の増大の関連を読み取る。
	10	『環境』とは何か 上垣崇英	・「環世界」などの概念に注意しながら筆者の主張を理解し、環境について理解を深める。	・筆者が「環境」を考えるうえで重要とすることについて読み取る。
		「仮説を立てて検証する」	・仮説を立てて検証し、検証過程を文章にまとめる。	・仮説の検証過程を的確に報告文にまとめるための文章構成や展開を理解する。
		問題演習		
	11	2学期中間考査		
		小論文指導		
三 学 期	12	「消費されるスポーツ」 多木浩二	・筆者の提示する問題を読み取って整理し、メディアとスポーツの関係について理解を深める。	・スポーツと「社会」の関連性について、「活動の総体」としての「社会」と、ア prioriに存在する「社会」という捉え方の違いを踏まえて理解する。
		「日本人の美意識」 高階秀爾	・図を適切に参照して本文中の対比を捉え、日本と西欧の美意識の違いを理解する。	・日本人の美意識が倫理観と結びつき、生活行動全般にまで及んでいるという筆者の考えを読み取る。
		問題演習		
		2学期末考査・冬期講習		
三 学 期	1	小論文指導	・論の展開を意識して主張を理解し、言語に対する筆者の考え方と自己の考え方を比較する。	・従来の記号学における記号観と、その範疇を超える言語記号の特殊性を、各具体例に即して理解する。
	2	「言語と記号」 丸山圭三郎	・さまざまな異世界との比較を通して、自己の生きる世界を相対的に認識することの意義を理解する。	・異国のの人々と、「近代」の精神との時間に対する感覚の違いを理解する。
	3	学年末考査		

その他 （ 履修上の留意点・大学等進学のための学習など ）

- ・漢字の小テストを活用して漢字・熟語の知識の定着を図ること。
- ・実戦力を養うために、問題演習や出された課題にしっかりと取り組むこと。
- ・志望理由書・入試小論文対策として、志望大学・学部とその専門について探究すること。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
論理国語	3	2年3類	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		新編 論理国語（東京書籍）	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目の到達目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能 ：実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等 ：論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等 ：言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
・教科書の単元教材ごとに読解力、鑑賞力、語彙力等が備わっているかを各定期考査で検証する。
・漢字の書き取り作業や小論文テキストを評価の一部とする。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	「対話とは何か」 細川英雄	・対話についての筆者の考えを捉え、日常のコミュニケーションの在り方を振り返る。	・「対話」と「おしゃべり」の違いを理解したうえで、ふだんの生活の中でどんなときに「おしゃべり」をし、どんなときに「対話」をしているかを振り返る。
	5	「最初のペンギン」 茂木健一郎	・筆者の考え方を手がかりにして現代社会を生きる上でどのような態度が必要か考える。	・未知の世界へ勇気をもって飛び込むことの意味や、自分の生き方について考える。
	6	1 学期中間考査		
	6	「世界を作り変えるために」 小林康夫	・学ぶことの意味について、筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	・「学ぶためのもう一つのポイント」である「思考の基本」について、読み取り、まとめる。（手引き5）
	7	「少女たちの『ひろしま』」 梯久美子	・戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える態度を養う。	・粘り強く筆者独自の「視点」を理解し、今までの学習を生かして戦時下の人々の日常と自分との接点について、考えを深める。
	7	資料を整理し、テーマを吟味しよう	・資料を集めてさまざまな観点から整理し、テーマを吟味する。	論点を整理したことで見えてきた、テーマについての自分の立場や意見、問題意識をまとめる。
		1 学期期末考査		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	小論文指導		
	10	「ふしぎということ」 河合隼推	・挙げられている話題を関連づけて読み取り、「ふしぎ」ということについて考えを深める。	・「自然科学」の方法と「物語」の違いについて理解する。
	11	「思考の肺活量」 鷲田清一	・比喩表現に注意して内容を読み取り、思考のあるべき姿について理解を深める。	・「思考」のために必要な「肺活量」とはどのようなものか理解する。
		2学期中間考査		
		「安心について」 広瀬 彬彦	・文章構成に注意して筆者の考えを理解し、安心というものの本質について考える。	・「安心」というものを筆者がどのように捉えているか考える。
	12	「複数のわたし」 松村圭一郎	・文章に示された考え方を手がかりに、「わたし」の捉え方について理解を深める。	・「別の『わたし』」が「他者によって引き出される」とは、どのようなことか、読み取る。
		2学期期末考査		
三 学 期	1	小論文指導		
	2	「はじめに『言葉』がある」 堀畑裕之	・筆者の仕事の経験を手がかりにして、働くことと言葉の関わりについて考える。	・「その心の向かい方」とは、どのようなことか、読み取る。
	3	「楽に働くこと、楽しく働くこと」 小関智弘	・楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。	・「工場のものづくり」がどのようなものかを理解し、近代工場での労働の「楽さ」と「楽しさ」についてまとめる。
		3学期期末考査		

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・主述や指示語・接続詞など日本語文法を理解し、論理的読解ができるように単元ごとの読解法を習得した上で、随時文章を書かせる指導をする。
- ・漢字力強化にも力を注ぎ、日本語の正しい知識も身につけさせる。
- ・図書館での読書活動や chromebook での情報収集を通して、さまざまな分野への興味・関心を広めたり、自分の研究テーマを持って調べ学習を展開したり、情報リテラシー能力を養う。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
古典探究	3	2年1類A・C型	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		精選古典探究(東京書籍)	古文単語 330 (いっぴな書店)

科目の到達目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

評価の観点と方法について a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
--

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	説話『宇治拾遺物語』 「小野篁、広才のこと」	・説話に叙述された世界を読み味わう。	・説話を読み、一年次に習った文法事項の復習をしながら、その構成や展開に即してあらすじをとらえる。 ・敬語表現の基本的な知識を習得させる。(敬語の種類)
	5	説話『古今著聞集』 「能は歌詠み」		
		漢文「先従隗始」	・故事成語の由来を正しく理解する。	・漢文に慣れ、訓読上のきまりをより正しく理解させる。 ・話の内容を正確に理解させる。
	6	1学期中間考査		
		物語『伊勢物語』 「初冠」 敬語法	・登場人物の境遇や心情がどのように表現されているかを読み取る。 ・文法プリントで敬語法を学習する。	・歌物語を読み、登場人物の心情や行動について考えさせる。 ・敬語の基礎知識を習得させる。 ・和歌の基本的な知識を身につける。
		随筆『枕草子』 「中納言参り給ひて」	・人間についての古人の優れた感性を知る。	・随筆を読み、作者の人生観に触れる。 ・敬語表現の使われ方を理解する。(敬意の方向等)
	7	漢文「不死之薬」 1学期末考査	・句法及び訓読の基本について、理解させる。	・話の流れや場面を正確に理解させる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	日記『更級日記』 「門出」 「物語」	・作者の生き方やものの見方、感じ方を知る。	・日記を読み、作者の心情を読み取りながら、当時の女性の生き方について考える。
	10	漢文『史記』 「四面楚歌」	・登場人物の性格や生き方を通して、人間のあり方や運命について関心を深める。	・話の展開を読み取りながら、古代中国の歴史の劇的な面白さを味わう。
		2学期中間考査		・随筆を読み、作者の自然観や人生観に触れる。
	11	随筆『徒然草』 「悲田院の堯蓮上人は」	・作者のものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、考えを深める。	・日記を読み、作者の心情を読み取りながら、当時の女性の生き方について考える。
		物語『源氏物語』 「光源氏の誕生」 「若紫」	・場面設定や自然描写などを確かめながら、物語の世界を読み味わう。	・『源氏物語』の世界に親しみ、登場人物のものの見方や心情の推移を読み取らせる。
	12	漢文『史記』 「項王自刎」 2学期末考査	・登場人物の性格や生き方を通して、人間のあり方や運命について関心を深める。	・話の展開を読み取りながら、古代中国の歴史の劇的な面白さを味わう。
三 学 期	1	歴史物語『大鏡』 「花山天皇の出家」	・登場人物の境遇や心情がどのように表現されているかを読み取る。	・歴史物語を読み、登場人物が政治の世界でどのように生きたかを理解させる。
	2	漢文「漁父辞」	・中国の思想を通して、人間の生き方やあり方についての思索を深める。	・人間や政治をめぐる古代中国のさまざまな思想を読み取る。
	3	学年末考査		
その他（履修上の留意点） ・ 予習として、古文は音読・単語調べを、漢文は音読・書き下し文をしておくこと。 ・ 古文単語小テストを実施し、主体的に学習に取り組む態度の評価に組み込む。				

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
古典探究	2	2年・1類・B型	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	精選古典B(東京書籍)	古文単語集・問題集	

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	説話『宇治拾遺物語』 「小野篁、広才のこと」	・展開のおもしろさを味わいながら、説話を正確に読み取る。	・説話を読み、その構成や展開に即してあらすじをとらえる。
		説話『古今著聞集』 「能は歌詠み」		・敬語表現の基本的な知識を習得させる。
	5	漢文「先従隗始」 1学期中間考査	・展開のおもしろさを味わいながら、漢文の読み方を確認する。	・漢文の訓読上のきまりを理解し、教訓的な話に親しむ。
	6	物語『伊勢物語』 「初冠」	・登場人物の境遇や心情がどのように表現されているかを読み取る。	・歌物語を読み、登場人物の心情や行動について考えさせる。
		随筆『枕草子』 「中納言参り給ひて」	・作者の生き方やものの見方、感じ方を知る。	・随筆を読み、作者の自然観や人生観に触れ、ものの見方、感じ方を豊かにする。
	7	漢文「不死之薬」 問題演習	・話の流れや場面を正確に理解させる。	・句法及び訓読の基本について、理解させる。
		1学期末考査		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	随筆『徒然草』 「悲田院の堯蓮上人は」	・随筆を読み、作者のものの見方や 感じ方、考え方の違いについて考 察する。	・随筆に表れている作者の主張を読み取 り、ものの見方、感じ方、考え方を深め る。
	10	漢文『史記』 「四面楚歌」 「項王自刎」 2学期中間考査	・登場人物の性格や生き方を通し て、人間のあり方や運命について 関心を深める。	・話の展開を読み取りながら、古代中国の 歴史の劇的な面白さを味わう。
	11	日記『更級日記』 「門出」 「物語」	・日記に表れている作者のものの見 方や感じ方、考え方を理解する。	・日記を読み、作者の境遇や出来事を的確 に捉える。
	12	物語『源氏物語』 「光源氏の誕生」 問題演習 2学期末考査	・場面設定や自然描写などを確かめ ながら、物語の世界を読み味わ う。	・『源氏物語』の世界に親しみ、登場人物 のものの見方や心情の推移を読み取る。
	1	物語『源氏物語』 「若紫」	・場面設定や自然描写などを確かめ ながら、物語の世界を読み味わ う。	・『源氏物語』の世界に親しみ、登場人物 のものの見方や心情の推移を読み取る。
	2	物語『大鏡』	・作品の特色に注意しながら、歴史 物語の内容を的確に読み取る。	・『大鏡』を読み、登場人物の行動や心情 を捉える。
三 学 期		和歌「八代集の世界」「歌合」 「歌論」「歌謡」	・歌合・歌論を含めて、和歌を多角 的に学習し、さらに歌謡を合わせ て日本の「うた」を総合的に捉え る。	・和歌、歌合、歌論の内容を読み取り、日 本の「うた」についての理解を深める。
	3	学年末考査		

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・予習として、古文は音読・単語調べを、漢文は音読・書き下し文をしておくこと。
- ・実戦力を養うために、問題演習や出された課題にしっかりと取り組むこと。
- ・古文単語小テストを実施し、主体的に学習に取り組む態度の評価に組み込む。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
古典探究	4	2年・2類・文型	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	精選古典B(東京書籍)	古文単語集・古典文法・漢文参考書・問題集	

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a(知識・技能) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	説話『宇治拾遺物語』 『古今著聞集』	・展開のおもしろさを味わいながら、説話を正確に読み取る。	・説話を読み、その構成や展開に即してあらすじをとらえる。
	5	物語『伊勢物語』	・歌物語の特色に注意しながら、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	・和歌と本文の内容との関係を正確に読み取る。
		漢文「小話六編」	・展開のおもしろさを味わいながら、漢文の読み方を確認する。	・漢文の基礎を復習しながら、教訓的な話に親しむ。
		問題演習 1学期中間考査		
		漢文『史記』「鴻門之会」 「四面楚歌」「項王自刎」	・登場人物の性格や生き方を通して、人間のあり方や運命について関心を深める。	・話の展開を読み取りながら、古代中国の歴史の劇的な面白さを味わう。
	6	物語『大和物語』	・登場人物の境遇や心情がどのように表現されているかを読み取る。	・話の展開に即して、内容を正確に読み取る。
	7	随筆『枕草子』	・作者の生き方やものの見方、感じ方を知る。	・随筆を読み、作者の自然観や人生観に触れ、ものの見方、感じ方を豊かにする。
		問題演習 1学期末考査 夏期講習		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	軍記『平家物語』	・物語を読むことを通して、中世という混乱した時代についての理解を深める。	・朗読などを通して、内容の解釈を深めたり、表現の特色について理解を深めたりする。
		随筆『方丈記』 『徒然草』 『玉勝間』	・さまざまな随筆を読み、作者のものの見方や感じ方、考え方の違いについて考察する。	・随筆に表れている作者の主張を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を深める。
	10	漢文『論語』 『孟子』 『荀子』 問題演習 2学期中間考査	・思想の異なる三人の儒家の文章を読み、各テーマに対する共通点や相違点を理解する。	・儒家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。
		日記『更級日記』 『蜻蛉日記』	・日記に表れている作者のものの見方や感じ方、考え方を理解する。	・日記を読み、作者の境遇や出来事を的確に捉える。
	11	物語『源氏物語』	・場面設定や自然描写などを確かめながら、物語の世界を読み味わう。	・『源氏物語』の世界に親しみ、登場人物のものの見方や心情の推移を読み取る。
		漢文『世説新語』 『太平広記』 問題演習	・発想や表現の特色を理解し、中国の小説のおもしろさを味わう。	・話の展開に即して、内容を正確に読み取る。
三 学 期	12	2学期末考査 冬期講習		
	1	物語『大鏡』	・関心を持った事柄について調べ、古典や日本の文化について考察する。	・『大鏡』を読み、登場人物の行動や心情を捉える。
	2	和歌「八代集の世界」「歌合」 「歌論」「歌謡」	・歌合・歌論を含めて、和歌を多角的に学習し、さらに歌謡を合わせて日本の「うた」を総合的に捉える。	・和歌、歌合、歌論の内容を読み取り、日本の「うた」についての理解を深める。
		漢文「近体詩一八首」 「古詩一五首」	・古体詩を読み、その特色を理解する。 ・近体詩の形式に親しむとともに漢詩を読む楽しさを知る。	・詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わう。
		漢文『老子』『荘子』 問題演習	・思想の異なる二人の道家の文章を読み、共通点や相違点を理解する。	・道家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。
	3	学年末考査		

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・予習として、古文は音読・単語調べを、漢文は音読・書き下し文をしておくこと。
- ・古文単語小テストや漢文句法小テストを活用して古文単語や漢文句法の知識定着を図ること。
- ・実戦力を養うために、問題演習や出された課題にしっかりと取り組むこと。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
古典探究	3	2年・2類・理型	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	精選古典B(東京書籍)	古文単語集・古典文法・漢文参考書・問題集	

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	説話『宇治拾遺物語』 『古今著聞集』	・展開のおもしろさを味わいながら、説話を正確に読み取る。	・説話を読み、その構成や展開に即してあらすじをとらえる。
	5	物語『伊勢物語』	・歌物語の特色に注意しながら、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	・和歌と本文の内容との関係を正確に読み取る。
		漢文「小話六編」	・展開のおもしろさを味わいながら、漢文の読み方を確認する。	・漢文の基礎を復習しながら、教訓的な話に親しむ。
		問題演習 1学期中間考査		
		漢文『史記』「鴻門之会」 「四面楚歌」「項王自刎」	・登場人物の性格や生き方を通して、人間のあり方や運命について関心を深める。	・話の展開を読み取りながら、古代中国の歴史の劇的な面白さを味わう。
	6	物語『大和物語』	・登場人物の境遇や心情がどのように表現されているかを読み取る。	・話の展開に即して、内容を正確に読み取る。
	7	随筆『枕草子』	・作者の生き方やものの見方、感じ方を知る。	・随筆を読み、作者の自然観や人生観に触れ、ものの見方、感じ方を豊かにする。
		問題演習 1学期末考査 夏期講習		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	軍記『平家物語』	・物語を読むことを通して、中世という混乱した時代についての理解を深める。	・朗読などを通して、内容の解釈を深めたり、表現の特色について理解を深めたりする。
		随筆『方丈記』 『徒然草』 『玉勝間』	・さまざまな随筆を読み、作者のものの見方や感じ方、考え方の違いについて考察する。	・随筆に表れている作者の主張を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を深める。
	10	漢文『論語』 『孟子』 『荀子』 問題演習 2学期中間考査	・思想の異なる三人の儒家の文章を読み、各テーマに対する共通点や相違点を理解する。	・儒家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。
		日記『更級日記』 『蜻蛉日記』	・日記に表れている作者のものの見方や感じ方、考え方を理解する。	・日記を読み、作者の境遇や出来事を的確に捉える。
	11	物語『源氏物語』	・場面設定や自然描写などを確かめながら、物語の世界を読み味わう。	・『源氏物語』の世界に親しみ、登場人物のものの見方や心情の推移を読み取る。
		漢文『世説新語』 『太平広記』 問題演習	・発想や表現の特色を理解し、中国の小説のおもしろさを味わう。	・話の展開に即して、内容を正確に読み取る。
三 学 期	12	2学期末考査 冬期講習		
	1	物語『大鏡』	・関心を持った事柄について調べ、古典や日本の文化について考察する。	・『大鏡』を読み、登場人物の行動や心情を捉える。
	2	和歌「八代集の世界」「歌合」 「歌論」「歌謡」	・歌合・歌論を含めて、和歌を多角的に学習し、さらに歌謡を合わせて日本の「うた」を総合的に捉える。	・和歌、歌合、歌論の内容を読み取り、日本の「うた」についての理解を深める。
		漢文「近体詩一八首」 「古詩一五首」	・古体詩を読み、その特色を理解する。 ・近体詩の形式に親しむとともに漢詩を読む楽しさを知る。	・詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わう。
		漢文『老子』『莊子』 問題演習	・思想の異なる二人の道家の文章を読み、共通点や相違点を理解する。	・道家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。
	3	学年末考査		

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・予習として、古文は音読・単語調べを、漢文は音読・書き下し文をしておくこと。
- ・古文単語小テストや漢文句法小テストを活用して古文単語や漢文句法の知識定着を図ること。
- ・実戦力を養うために、問題演習や出された課題にしっかりと取り組むこと。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
古典探究	2	2年3類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	新編古典探究（東京書籍）		プリントなど

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 知識・技能 ：生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 思考力、判断力、表現力等 ：論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 学びに向かう力、人間性等 ：言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
古典教材の学習を中心に、古文解釈力の伸長の度合いを定期考査で検証する。
定期考査と平常点（提出物など）により、総合的に評価する。また創作活動などに於いては意欲や授業に対する積極性を対象とし、平常点として考慮していく。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
学期	4	説話『宇治拾遺物語』 「小野篁、広才のこと」	・展開のおもしろさを味わいながら、説話を正確に読み取る。	・説話文学の特色を理解し、説話の面白さを理解する。
	5	『十訓抄』「大江山の歌」	・和歌を含んだ説話を読み取り、展開のおもしろさを捉える。	・「係り結び」とその効果を理解する。 ・和歌の修辞を理解する。
		1学期中間考査		
	6	説話『宇治拾遺物語』 「空を飛ぶ倉」	・絵巻の内容も踏まえながら説話を読み取り、内容についての理解を深める。	・絵巻と本文とを関連付けて捉え、学習課題に沿って内容についての理解を深める。
	7	随筆『徒然草』 「丹波に出雲といふ所あり」	・随筆に表れている作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	・随筆文学が、作者の自由な目で記されたものであり、題材・文体が多岐にわたることを理解する。
		1学期末考査		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	日記『更科日記』 「門出」 「物語」	・日記を読み、作者の心情を的確に捉える。	・門出にあたっての作者の心情を読み取る。 ・「源氏の物語」を読む感動はどのように描かれているか、まとめる。
	10	2学期中間考査		
	11	随筆『枕草子』 「ありがたきもの」 「中納言参り給ひて」	・随筆の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。 ・歌物語の特色に注意しながら、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	・作者のどのような行動が中納言の心になかったのかを読み取る。 ・最終部の評語から、この章段の主題を考える。
	12	歌物語『伊勢物語』 「初冠」 2学期末考査		
三 学 期	1	歌物語『伊勢物語』 「渚の院」	・歌物語に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、自分の考えを深める。	・場所を移しながら詠まれた歌を、情景を思い描きながら読み取る。
	2	歴史物語『大鏡』 「三船の才」		
	3	学年末考査	・作品の特色に注意しながら、歴史物語の内容を的確に読み取る。	・「小倉山…」の歌を解釈し、用いられている修辞等からこの歌の特徴を挙げる。 ・公任が後悔している心情を考える。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
論理国語	2	3年・1類・B型	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		精選論理国語(東京書籍)	入試問題集等

科目の到達目標
知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
思考力, 判断力, 表現力等 論理的, 批判的に考える力を伸ばすとともに, 創造的に考える力を養い, 他者との関わりの中で伝え合う力を高め, 自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
学びに向かう力, 人間性等 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに, 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ, 我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め, 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
・漢字・語句の小テスト、各課題の取り組みを評価に加える。
・各自の考えなどを Google フォームなどで提出してもらい、評価に加える。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
学期	4	1 言葉を再考する 「混じり合う言葉」	・筆者の体験と考察の關係に着目して読み, 言語に対する見方を広げる。	・日本語とフランス語の織り交ざった「言語の環世界」での筆者の体験と娘への願いを読み取り, 理解する。
	5	2 近代という時代 「環境問題と孤立した個人」	・取り上げられる話題をたどりながら近代の自然観を捉え, 環境問題についての考えを深める。	・近代科学における自然観と同様な個人概念についての筆者の考えを読み取る。
		「引用の方法」 問題演習	・引用の方法を学び, 適切に引用できるようにする。	・「意見整理の例」を参考に, 考察内容や自分の意見, 資料の価値づけを, 枠組みに沿って整理する。
		中間考査 「鏡の中の現代社会」	・さまざまな異世界との比較を通して, 自己の生きる世界を相対的に認識することの意義を理解する。	・「方法としての異世界」という表現の内容に注意し, 筆者の主張を本文に即して理解する。
	6	メディアを問い直す 「おじいさんのランプ」	・話題と主張の關係に着目して読み, 時代とともに変わっていく本の在り方について考える。	・情報は「どのようなものに乗せて人に届けられるべきか」という観点から, 本の今後の在り方について考える。
		「書物の近代」 問題演習	・書物の変遷を題材とした評論を読み, 情報化社会における書物の在り方について理解する	・筆者の述べる「今後の書物の在り方」について読み取る。
	7	期末考査		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	4 他者のいる思考 「原始社会像の真実」	・時間的に異なる世界を題材とした評論を読み、社会の変遷を捉える見方を身につける。	・原始から現代に至る社会の変遷についての筆者の考えを理解する。
	10	「ロボットは意志を持つか」 問題演習 中間考査	・意志や自由について論じた評論を読み、哲学的な思考の方法を理解する。	・筆者が「意志は心の状態ではない」と考える理由を、具体例に注目して読み取る。
		5 困難な時代に 「社会の壊れるとき——知性的であるとはどういうことか」	・事例と引用を用いた論の展開を確かめながら主張を捉え、知性の意義について自分の考えを深める	・筆者の考える「知性的ということ」について読み取り、まとめる。
	11	「虚実の間に」 問題演習	・論の展開とキーワードに注意して主張を捉え、情報技術がもたらす社会への影響について考えを深める。	・「従来型のフィクション」の書き手と、「トゥルースを偽装する」フィクションの書き手との違いを読み取り、まとめる。
	12	期末考査		
三 学 期	1	6 自己と社会「抗争する人間」 問題演習	・人間の社会性と倫理観についての筆者の考察を理解し、人間に対する理解を深める。	・「虚栄心」が生まれる理由についての論証を、根拠と導出の適切さに注意し、まとめる。
	2	学年末考査		
	3			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・知識、思考力を養い、読解力を培うことは今後の生活にも役立てられる。主体的に取り組むこと。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
論理国語	2	3年・2類・理型	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		精選論理国語(東京書籍)	入試問題集 等

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度)言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一 学 期	4	『原始社会像の真実』 新納 泉	・時間的に異なる世界を題材とした評論を読み、社会の変遷を捉える見方を身につける。	・原始社会の姿の三つの例と、それらを通じて述べられた筆者の考えを確かめながら、全文を通読する。 ・原始社会の実像の捉え方と社会の変遷についての筆者の考えを理解する。
	5	『ロボットは意志を持つか』 野矢茂樹 問題演習 1学期中間考査	・意志や自由について論じた評論を読み、哲学的な思考の方法を理解する。	・「プログラムどおりに動くだけのロボット」と「ブラックボックス化したロボット」について、「非両立論」の立場では、自由意志の有無をそれぞれどのように考えるかを整理する。
	6	『社会の壊れるとき』 鷲田清一	・事例と引用を用いた論の展開を確かめながら主張を捉え、知性の意義について自分の考えを深める。	・抽象的な言葉や指示語の意味内容を理解して、筆者の考えを読み取る。 ・文化の崩壊と「近代性」の関連についての筆者の考えを読み取る。
	7	『抗争する人間』 今村仁司 問題演習 1学期末考査 夏期講習	・人間の社会性と倫理観についての筆者の考察を理解し、人間に対する理解を深める。	・「社会的欲望」の特徴を理解し、「肉体的欲望」との違い、「欲望」と「満足」の関係を把握する。 ・他人に優越しようとする意識が、他人に対する「排除と差別」へとつながっていく仕組みを理解する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	入試対策演習	・入試に対応できる力を養う。	・問題集や入試過去問題を解くことによって、正しい解答を作成する力を身につける。
		共通テスト対策演習	・入試過去問題の演習を重ねて学力の充実を図る。	・私立大学の入試問題や二次試験の問題にあたって、個別に指導する。
	10		・小論文入試に対応できる力を養う。	・小論文添削指導。
		2学期中間考査	・入試に対応できる力を養う。	・問題集や入試過去問題を解くことによって、正しい解答を作成する力を身につける。
		問題演習		
	11	共通テスト対策演習	・共通テストの過去問題や入試過去問題の演習を重ねて学力の充実を図る。	・私立大学の入試問題や二次試験の問題にあたって、個別に指導する。
		入試過去問演習	・小論文入試に対応できる力を養う。	・小論文添削指導。
		2学期末考査		
	12	冬期講習		
三 学 期	1	共通テスト直前対策	・共通テストに向けての総仕上げをする。	・演習及び、注意点の確認。 ・基本事項をチェックし、模擬問題にあたる。
	2			
	3			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・適宜復習テストを行う。
- ・受験予定大学の出題傾向を各自で必ず把握しておくこと。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
論理国語	3	3年3類	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		新編 論理国語（東京書籍）	漢字トレーニングセレクト(いっすな書店)

科目の到達目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能 ：実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等 ：論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等 ：言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
・漢字の書き取り作業や小論文テキストを評価の一部とする。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	1時代をひらく「最初のペンギン」	・タイトルに象徴される筆者の考えを手がかりにして、自分の生き方について考える。	・「譲歩」を用いて論じている部分を指摘し、その効果を考える。 ・「不確実な状況下」でどう決断して行動するかということについて考える。
	5	2新しい視点から「カフェの開店準備」 図表の読み取り方 中間考査	・日々の何気ない光景から広がっていく筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。 ・図表の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。	・「行為の習慣化」について、筆者の考えをもとにして考える。 ・「図表の読み取り方」の①②を読み、現象を把握する具体的方法を理解する。出典の確認ポイント・図表が「何を」「どのように」表しているかの読み取りポイントを理解する。
	6	3科学と人間「鏡としてのアンドロイド」 「ロボットが人間になるとき」	・アンドロイドの研究を踏まえた評論を読んで、人間に対する筆者の考えを捉える。 ・哲学的な思考に沿って書かれた評論を読んで、人間の意志や自由について理解を深める。	・「人間についての根本的な疑問」と「創造的な活動」との関係を読み取る。 ・「対等の隣人」とあるが、どのような点で対等なのか、筆者の考えを読み取る。
	7	資料を活用して論述しよう 期末考査	・資料を集めて論題を設定し、意見を整理して論述する。	・「学習の流れ」を読み、論述活動についての見通しを持つ。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	言葉の扉4「的確に表現するために」	・的確な表現の仕方について理解する。	・自分の考えを相手に的確に伝えるための表現について理解する。
	10	5 知のゆくえ「知識における作者性と創造性」 中間考査 「もう一つの知性」	・インターネットと本を比較しながら書かれた評論を読み、情報と知識について理解を深める。 ・科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。	・「ネット情報」と「図書館に収蔵されている本」について、筆者の言う「作者性」における違いをまとめる。 ・「この小学生がお父さんより知的な人間とはいえない」といえる根拠として、本文で述べられていることをまとめる。
	11	6 明日をみつめて「未来のありか」 やさしい日本語	・小見出しを参考にして各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。 ・資料を読んで「やさしい日本語」について理解し、実用的な文章の分かりやすさについて考える。	・未来の事物の予想や予期や想像が個々の意識の中に生まれ、社会生活の中で共有されていく過程について読み取り、まとめる。 ・「やさしい日本語」の目的と内容を確認する。
三 学 期	1	「ホンモノのおカネの作り方」	・二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。	・「その時々ホンモノ」「ホンモノの形而上学」などの語句に注意して、筆者の結論の妥当性を確認し、更にその結論を通して、筆者は何を言おうとしているのかを考える。
	2			
	3			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・資料の使い方や文章表現で工夫すべき点を学ぶことで、自分の意見を的確に伝える力を養う。
- ・図書館での読書活動や chromebook での情報収集を通して、さまざまな分野への興味・関心を広めたり、自分の研究テーマを持って調べ学習を展開したり、情報リテラシー能力を養う。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
文学国語	4	3年 1類 (A・C型)	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		文学国語 (東京書籍)	解法のテクニック(啓隆社) 他

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a (知識・技能) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。
b (思考・判断・表現) 各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
c (主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
以上の観点について、定期テスト・レポート・小テストなどを通して確認する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	随筆 「光の窓」 小池昌代	・筆者の感じ方や思いを読み取ることで、ものの見方を広げる。	・心理描写や情景描写を通して筆者の思いを読み取る。
	5	小説 「山月記」 中島 敦 小論文指導 1学期中間考査	・小説の虚構性を通して人間存在の意味、人生の在り方について考えを深める。	・小説に描かれた場面や登場人物についての的確に捉える。 ・作中人物の言動、心理を読み取り、人間理解に繋げる。 ・漢文調の文体を味わう。
	6	小説 「鞆」 安部公房	・物語の展開や状況の変化に注意して小説を読み、現代の社会や自らの生活を捉え直す。	・明示されていないにもかかわらず伝わってくるものについて文章の表現に即して考える。
	7	「あの朝」 角田光代 小論文指導 1学期期末考査	・些細な心の動きを繊細に掬い上げる情緒を育む。 ・言葉で表現することへの意欲を持ち、効果的な表現を考えて書く力を養う。	・日常の出来事による心情の機微に気づく。 ・論理の構成や展開を意識し、小論文を書く。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	随筆 「国語から旅立って」 温 又柔	・筆者の経験や思いを捉え、言葉と自分との関わりを考える。	・筆者の体験を読み、自分と言葉、ひいては「世界」との関わりについて考える。
	10	小説 「檸檬」 梶井基次郎 2学期中間考査	・鋭い言語感覚、優れた表現効果を味わう。	・独特の世界観や内面表現を通じて、ユーモアに富んだ小説を味わう。
	11	詩歌 「平氣—正岡子規」 長谷川櫂	・歌論を読み、作品鑑賞の感じ方を深める。	・作品からどのようにして筆者が主張を導き出したのかを考え、理解する。 ・一般論と筆者の主張の対比を理解する。
	12	随筆 「クレールという女」 須賀敦子 小論文指導 2学期期末考査	・個性的な内容の随想を読むことを通して、感性や心情を豊かにする。 ・言葉で表現することへの意欲を持ち、効果的な表現を考えて書く力を養う。	・引用された『人間のしるし』の登場人物たちの生き方を通して述べられた男性観、女性観について理解する。 ・自身の価値観や生き方についても考える機会とする。 ・論理の構成や展開を意識し、小論文を書く力を養う。
三 学 期	1	小説 「葉桜と魔笛」 太宰 治 学年末考査	・多様な表現方法を用いて書かれた小説を読み、作品世界を味わう。	・作品の叙述に着目し読解を深める。
	2			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・大学入試に対応するための読解力を目指し、論理的思考を養う。
- ・文章表現の練習を計画的に行い、小論文の力を養成する。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
文学国語	3	3年・2類・文型	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		文学国語(東京書籍)	入試問題集 等

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度)言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	『光の窓』 小池昌代	・筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考える。	・筆者は自分の幼年期の感覚をどのように捉えているかを読み取る。
	5	『山月記』 中島 敦	・登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。	・虎となった李徴の心情と生き方を考える。
		『永訣の朝』 宮澤賢治	・表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。	・怪異な虚構が用いられた理由、効果について発表する。
		問題演習 1 学期中間考査		・妹の置かれた状態を表す比喻などから、作者がどんな変化を体験しているのかを考え、作者の目標としたものをまとめる。
	6	『檸檬』 梶井基次郎	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について考える。	・「えたいの知れない不吉な塊」によってもたらされた「私」の心理状態を捉える。
		『平気-正岡子規』 長谷川 権	・韻文とその解釈によって描き出される人物像を的確に捉え、人間と文学の関係について考える。	・檸檬を買ってからの「私」の心情を理解する。
	7	『演技する「私」』 安藤 宏 問題演習 1 学期末考査 夏期講習	・筆者の主張の展開を押さえ、小説における作者と小説内の「私」との関係について考えを深める。	・子規が闘病生活を『平気』で生きるという、その「平気」とはどのような心の在り方であるのかを考える。
				・筆者は、作中の「私」の果たす役割から、小説の特質をどのようなものだと主張しているか読み取る。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	入試対策演習	・入試に対応できる力を養う。	・問題集や入試過去問題を解くことによって、正しい解答を作成する力を身につける。
		共通テスト対策演習	・入試過去問題の演習を重ねて学力の充実を図る。	・私立大学の入試問題や二次試験の問題にあたって、個別に指導する。
	10		・小論文入試に対応できる力を養う。	・小論文添削指導。
		2学期中間考査	・入試に対応できる力を養う。	・問題集や入試過去問題を解くことによって、正しい解答を作成する力を身につける。
		問題演習	・共通テストの過去問題や入試過去問題の演習を重ねて学力の充実を図る。	・私立大学の入試問題や二次試験の問題にあたって、個別に指導する。
	11	共通テスト対策演習		
		入試過去問演習	・小論文入試に対応できる力を養う。	・小論文添削指導。
		2学期末考査		
	12	冬期講習		
三 学 期	1	共通テスト直前対策	・共通テストに向けての総仕上げをする。	・演習及び、注意点の確認。 ・基本事項をチェックし、模擬問題にあたる。
	2			
	3			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・適宜復習テストを行う。
- ・受験予定大学の出題傾向を各自で必ず把握しておくこと。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
文学国語	3	3年 3類	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		文学国語（東京書籍）	

科目の到達目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について a（知識・技能） 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 b（思考・判断・表現） 各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c（主体的に学習に取り組む態度） 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 以上の観点について、定期テスト・レポート・小テストなどを通して確認する。
--

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	随筆 「光の窓」 小池昌代	・筆者の感じ方や思いを読み取ることで、ものの見方を広げる。	・心理描写や情景描写を通して筆者の思いを読み取る。
	5	小説 「山椒魚」 中島 敦 小論文指導 1学期中間考査	・小説に込められた寓意から、生きることへの考えを深める。	・小説の虚構性のなかで登場する山椒魚や蛙の言動、心理を読み取り、人間社会とそこでどう生きるかを考える。
	6	小説 「鞆」 安部公房	・物語の展開や状況の変化に注意して小説を読み、現代の社会や自らの生活を捉え直す。	・明示されていないにもかかわらず伝わってくるものについて文章の表現に即して考える。
	7	「あの朝」 角田光代 小論文指導 1学期期末考査	・些細な心の動きを繊細に掬い上げる情緒を育む。 ・言葉で表現することへの意欲を持ち、効果的な表現を考えて書く力を養う。	・日常の出来事による心情の機微に気づく。 ・論理の構成や展開を意識し、小論文を書く。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	随筆 「国語から旅立って」 温 又柔	・筆者の経験や思いを捉え、言葉と自分との関わりを考える。	・筆者の体験を読み、自分と言葉、ひいては「世界」との関わりについて考える。
	10	小説 「檸檬」 梶井基次郎 2学期中間考査	・鋭い言語感覚、優れた表現効果を味わう。	・独特の世界観や内面表現を通じて、ユーモアに富んだ小説を味わう。
	11	詩歌 「平氣—正岡子規」 長谷川櫂	・歌論を読み、作品鑑賞の感じ方を深める。	・作品からどのようにして筆者が主張を導き出したのかを考え、理解する。 ・一般論と筆者の主張の対比を理解する。
	12	随筆 「クレールという女」 須賀敦子 小論文指導 2学期期末考査	・個性的な内容の随想を読むことを通して、感性や心情を豊かにする。 ・言葉で表現することへの意欲を持ち、効果的な表現を考えて書く力を養う。	・引用された『人間のしるし』の登場人物たちの生き方を通して述べられた男性観、女性観について理解する。 ・自身の価値観や生き方についても考える機会とする。 ・論理の構成や展開を意識し、小論文を書く力を養う。
三 学 期	1	小説 「葉桜と魔笛」 太宰 治 学年末考査	・多様な表現方法を用いて書かれた小説を読み、作品世界を味わう。	・作品の叙述に着目し読解を深める。
	2			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・大学入試に対応するための読解力を目指し、論理的思考を養う。
- ・文章表現の練習を計画的に行い、小論文の力を養成する。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
古典探究	2	3年1類A・C型	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		精選古典探究 (東京書籍)	古文単語 330 (いっずな書店)

科目の到達目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

評価の観点と方法について a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
--

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
	4	説話2 発心集 「蓮華城、入水のこと」	・説話に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、考えを深める。	・本説話から、鴨長明は人の心というものをどのように捉えていたか考える。
	5	史話 日本外史「諸将服信玄」	・登場人物の行動や心情を読み取り、人間の生き方について考える。	・謙信はどのような作戦を考え、また信玄はそれに対してどのような判断を下したかを読み取る。
		日記2 紫式部日記 「日本紀の御局」	・作品の背景を踏まえながら日記を読み、内容の解釈を深める。	・作者や登場人物について理解し、最後の一文に表れる作者の心情を考える。
		中間考査 「和泉式部日記」	・表現に注意しながら読むことを通して、作品の特色を理解する。	・女の故宮への思い、帥宮との新たな恋に対する思いを理解する。
	6	作り物語2 源氏物語 「萩の上露」	・作り物語を読み、登場人物の心情を読み解く。	・和歌に注意して、登場人物の心情を読み取る。
		期末考査		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	歴史物語2 大鏡 「道長、伊周の競射」	・歴史物語を背景に注意しながら読み、作品についての理解を深める。	・勝負の延長を要求した道隆の意図と、それを受けての道長の言動について、伊周と比較しつつ考える。
	10	評論 無名草子 「清少納言」 「紫式部」 中間考査 北辺随筆「読書の心得」	・他の作品などとの関係を踏まえながら文章の内容を的確に捉え、考えを深める。 ・自分と関係づけたり、関連することを調べたりしながら文章を読み、考えを広げる。	・清少納言は、歌人として、および『枕草子』の作者として、どのような人物と捉えられているかを読み取る。 ・『紫式部日記』に関する記述と関連させつつ、話し手の捉えた紫式部の人物像を読み取る。 ・作者が批判する読書のあり方とその根拠を読み取る。
	11	作り物語3 落窪物語 「姫君の苦難」	・設定や表現の特色を踏まえながら、作り物語の内容を的確に捉える。	・継母北の方、父中納言の言動に対する、少将と落窪の君の心情を把握する。
	12	期末考査		
三 学 期	1	作り物語3 とりかへばや物語「人知れぬもの思ひ」	・設定や表現の特色を踏まえながら、作り物語の内容を的確に捉える。	・二人の子どもたちがどのように描かれているか、理解する。・父大納言の思いを理解する。
		期末考査		
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） 各自基礎的な文法事項は自主的に復習しておくこと。 受験対策が必要な生徒は相談しながら問題演習を重ねること。				

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
古典探究	2	3年1類B型	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		精選古典探究 (東京書籍)	古文単語 330 (いっずな書店)

科目の到達目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

評価の観点と方法について a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
--

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
	4	説話2 発心集 「蓮華城、入水のこと」	・説話に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、考えを深める。	・本説話から、鴨長明は人の心というものをどのように捉えていたか考える。
	5	史話 日本外史「諸将服信玄」 日記2 紫式部日記 「日本紀の御局」 中間考査 「和泉式部日記」	・登場人物の行動や心情を読み取り、人間の生き方について考える。 ・作品の背景を踏まえながら日記を読み、内容の解釈を深める。 ・表現に注意しながら読むことを通して、作品の特色を理解する。	・謙信はどのような作戦を考え、また信玄はそれに対してどのような判断を下したかを読み取る。 ・作者や登場人物について理解し、最後の一文に表れる作者の心情を考える。 ・女の故宮への思い、帥宮との新たな恋に対する思いを理解する。
	6	作り物語「萩の上露」 詩 李白と杜甫 「秋浦歌」「月下独酌」「絶句」 「登岳陽樓」 期末考査	・作り物語を読み、登場人物の心情を読み解く。 ・詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わい、近体詩と古体詩の違いを理解する。	・和歌に注意して、登場人物の心情を読み取る。 ・展開に注意して現代語訳し、それぞれの詩にうたわれた作者の心情、景観の描写を理解する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	歴史物語2 大鏡 「道長、伊周の競射」 評論 無名草子 「清少納言」 「紫式部」	・歴史物語を背景に注意しながら読み、作品についての理解を深める。 ・他の作品などとの関係を踏まえながら文章の内容を的確に捉え、考えを深める。	・勝負の延長を要求した道隆の意図と、それを受けての道長の言動について、伊周と比較しつつ考える。 ・清少納言は、歌人として、および『枕草子』の作者として、どのような人物と捉えられているかを読み取る。 ・『紫式部日記』に関する記述と関連させつつ、話し手の捉えた紫式部の人物像を読み取る。
	10	問題演習 中間考査 北辺随筆「読書の心得」	・入試に向けた読解力・思考力を培う。 ・自分と関係づけたり、関連することを調べたりしながら文章を読み、考えを広げる。	・共通テスト・私立大学対策の問題演習を重ねる。 ・作者が批判する読書のあり方とその根拠を読み取る。
	11	作り物語3 落窪物語 「姫君の苦難」	・設定や表現の特色を踏まえながら、作り物語の内容を的確に捉える。	・継母北の方、父中納言の言動に対する、少将と落窪の君の心情を把握する。
	12	問題演習 期末考査	・入試に向けた読解力・思考力を培う。	・共通テスト・私立大学対策の問題演習を重ねる。
	1	作り物語3 とりかへばや物語 「人知れぬもの思ひ」 問題演習 期末考査	・設定や表現の特色を踏まえながら、作り物語の内容を的確に捉える。 ・入試に向けた読解力・思考力を培う。	・二人の子どもたちがどのように描かれているか、理解する。・父大納言の思いを理解する。 ・共通テスト・私立大学対策の問題演習を重ねる。
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） ・自分の希望進路に応じて、復習・演習量、取り組み方を考えて工夫すること。わからなければ即時相談すること。				

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
古典探究	3	3年1類C型	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		精選古典探究 (東京書籍)	古文単語330 (いゝずな書店)

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度)言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
	4	説話2 『発心集』 「蓮華城、入水のこと」	・説話に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、考えを深める。	・本説話から、鴨長明は人の心というものをどのように捉えていたか考える。
	5	史話 『日本外史』 「諸将服信玄」	・登場人物の行動や心情を読み取り、人間の生き方について考える。	・謙信はどのような作戦を考え、また信玄はそれに対してどのような判断を下したかを読み取る。
		日記2 『紫式部日記』 「日本紀の御局」	・作品の背景を踏まえながら日記を読み、内容の解釈を深める。	・作者や登場人物について理解し、最後の一文に表れる作者の心情を考える。
		入試対策演習 中間考査 『和泉式部日記』		
	6	「夢よりもはかなき世の中を」	・表現に注意しながら読むことを通して、作品の特色を理解する。	・女の故宮への思い、帥宮との新たな恋に対する思いを理解する。
		作り物語2 『源氏物語』 「萩の上露」 入試対策演習 期末考査	・作り物語を読み、登場人物の心情を読み解く。	・和歌に注意して、登場人物の心情を読み取る。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	歴史物語2 『大鏡』 「道長、伊周の競射」	・歴史物語を背景に注意しながら読み、作品についての理解を深める。 ・他の作品などとの関係を踏まえながら文章の内容を的確に捉え、考えを深める。 ・自分と関係づけたり、関連することを調べたりしながら文章を読み、考えを広げる。 ・設定や表現の特色を踏まえながら、作り物語の内容を的確に捉える。	・勝負の延長を要求した道隆の意図と、それを受けての道長の言動について、伊周と比較しつつ考える。 ・清少納言は、歌人として、および『枕草子』の作者として、どのような人物と捉えられているかを読み取る。 ・『紫式部日記』に関する記述と関連させつつ、話し手の捉えた紫式部の人物像を読み取る。 ・作者が批判する読書のあり方とその根拠を読み取る。 ・継母北の方、父中納言の言動に対する、少将と落窪の君の心情を把握する。
	10	評論 『無名草子』 「清少納言」 「紫式部」 入試対策演習 中間考査		
	11	『北辺随筆』「読書の心得」 作り物語3 『落窪物語』 「姫君の苦難」		
	12	入試対策演習 期末考査		
三 学 期	1	作り物語3 『とりかへばや物語』 「人知れぬもの思ひ」 入試対策演習 期末考査	・設定や表現の特色を踏まえながら、作り物語の内容を的確に捉える。	・二人の子どもたちがどのように描かれているか、理解する。 ・父大納言の思いを理解する。
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） 各自基礎的な文法事項は自主的に復習しておくこと。 受験対策が必要な生徒は相談しながら問題演習を重ねること。				

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
古典探究	4	3年・2類・文型	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		精選古典探究(東京書籍)	入試問題集 等

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度)言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	『落窪物語』 『今物語』 『源氏物語』① 『紫式部日記』 『和泉式部日記』	・さまざまな物語を読み、作品の構成や表現の特色について理解する。 ・さまざまな日記を読み、作品の内容や特色について理解する。	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・日記を読み、作者の物の見方や感じ方、考え方について考察する。
	5	『十六夜日記』 漢文「赤壁之戦」 問題演習	・史話を読み、作品の価値や日本の文化に与えた影響について考える。	・登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について考える。
	6	1学期中間考査 『源氏物語』② 『栄花物語』 『今鏡』 『大鏡』 漢文「背水陣」 「桃花源記」 問題演習	・作品の、古典における位置づけや普遍的価値について考察する。 ・『史記』を読み、歴史のおもしろさを味わう。 ・話の展開を捉え、そこに描かれている世界を理解する。	・場面設定や自然描写などを確かめながら、物語の世界を読み味わう。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。 ・登場人物の生き方や考え方を通して、人間のあり方について考察する。
	7	1学期末考査 夏期講習		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	入試対策演習	・入試に対応できる力を養う。	・問題集や入試過去問題を解くことによって、正しい解答を作成する力を身につける。
	10	共通テスト対策演習	・入試過去問題の演習を重ねて学力の充実を図る。	・私立大学の入試問題や二次試験の問題にあたらせ、個別に指導する。
		2学期中間考査	・古典の基礎事項を繰り返し確認する。	・古典文法・古文単語の確認。
		問題演習	・入試に対応できる力を養う。	・問題集や入試過去問題を解くことによって、正しい解答を作成する力を身につける。
	11	共通テスト対策演習	・共通テストの過去問題や入試過去問題の演習を重ねて学力の充実を図る。	・私立大学の入試問題や二次試験の問題にあたらせ、個別に指導する。
		入試過去問演習	・古典の基礎事項を繰り返し確認する。	・古典文法・古文単語の確認。
		2学期末考査		
	12	冬期講習		
三 学 期	1	共通テスト直前対策	・共通テストに向けての総仕上げをする。	・演習及び、注意点の確認。
	2			・基本事項をチェックし、模擬問題にあたる。
	3			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・適宜復習テストを行う。
- ・受験予定大学の出題傾向を各自で必ず把握しておくこと。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
古典探究	2	3年・2類・理型	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		精選古典探究(東京書籍)	入試問題集 等

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度)言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	『落窪物語』 『源氏物語』 『紫式部日記』 漢文「赤壁之戦」 問題演習 1学期中間考査	・さまざまな物語を読み、作品の構成や表現の特色について理解する。 ・日記を読み、作品の内容や特色について理解する。 ・史話を読み、作品の価値や日本の文化に与えた影響について考える。	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・日記を読み、作者の物の見方や感じ方、考え方について考察する。 ・登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について考える。
	5			
	6	『栄花物語』 『大鏡』 『今鏡』 『増鏡』 漢文「背水陣」 問題演習	・作品の、古典における位置づけや普遍的価値について考察する。 ・『史記』を読み、歴史のおもしろさを味わう。	・場面設定や自然描写などを確かめながら、物語の世界を読み味わう。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。 ・登場人物の生き方や考え方を通して、人間のあり方について考察する。
	7	1学期末考査 夏期講習		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	入試対策演習	・入試に対応できる力を養う。	・問題集や入試過去問題を解くことによって、正しい解答を作成する力を身につける。
	10	共通テスト対策演習	・入試過去問題の演習を重ねて学力の充実を図る。	・私立大学の入試問題や二次試験の問題にあたらせ、個別に指導する。
		2学期中間考査	・古典の基礎事項を繰り返し確認する。	・古典文法・古文単語の確認。
	11	問題演習	・入試に対応できる力を養う。	・問題集や入試過去問題を解くことによって、正しい解答を作成する力を身につける。
		共通テスト対策演習	・共通テストの過去問題や入試過去問題の演習を重ねて学力の充実を図る。	・私立大学の入試問題や二次試験の問題にあたらせ、個別に指導する。
		入試過去問演習	・古典の基礎事項を繰り返し確認する。	・古典文法・古文単語の確認。
		2学期末考査		
	12	冬期講習		
三 学 期	1	共通テスト直前対策	・共通テストに向けての総仕上げをする。	・演習及び、注意点の確認。 ・基本事項をチェックし、模擬問題にあたる。
	2			
	3			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・適宜復習テストを行う。
- ・受験予定大学の出題傾向を各自で必ず把握しておくこと。